

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(7) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(7)—

1. 始めに

前報(6)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は、弦楽五重奏です。

CBS SONY 20AC 1564

モーツアルト 弦楽五重奏曲ハ長調

弦楽四重奏曲ト長調

ブダペスト弦楽四重奏団

ワルター・トランプラー (第2 ヴィオラ)

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

CBS SONY 盤ということで、Columbia、逆相、第4時定数 Low で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、弦楽五重奏曲はヴィオラが2台となり、内声部が充実してきますので、ヴィオラのトランプラーが加わったブダペスト弦楽四重奏団のメリハリの利いた力強い演奏が聴けます。

ThorensTD124 の再生では、音の解像度やメリハリは LINN LP-12 に譲るとしても、伸び伸びと良く歌っているという印象です。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorensTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、弦楽四重奏曲とは違う弦楽五重奏曲の表情が、LINN LP-12 と ThorensTD124 それぞれの描き方で明瞭に聴き取れます。

以上